

関東フォーラム 実施報告書



平成28年3月4日（金）～6日（日）
ボーイスカウト日本連盟那須野営場

関東フォーラム実行委員会

目 次

目的・ねらいにたいしての評価反省	P 2
実行委員名簿	P 3
参加者名簿	P 4
事前準備の評価反省	P 6
各プログラムの評価反省	P 8
日程表	P 1 3
採択文	P 1 6
関東フォーラムを実施して	P 2 0

目的・ねらいにたいしての評価反省

目的：関東のローバースカウトが他県のローバーリングを知ることで、自身のローバーリングを見つめ直す。

多くの活動報告、あらかじめ実行委員により所属県連盟がバラバラになるようにグループ分けをしたため、他県のスカウティング、県民性を理解することができたと思う。

今回の参加者に大学ローバーに所属しているスカウトが複数参加していたのと、その中に大学からボーイスカウト活動を始めたスカウトがいたため自然と議論は「大学ローバーと地域ローバー」についてに関わるものが多くなった。

この結果は予想していなかったが、地域ローバーに所属しているスカウトにとっては大学ローバーについてよく知る機会となりそのことについて年齢、性別、所属県連盟、経験が違うスカウトとディスカッションできたのは、自身のローバーリングを見つめ直す良いきっかけとなったと言える。よってこの目的は達成されたと考える。

ねらい：1 他県のローバースカウトの意見を知り、今後のつながりを作る。

目的の部分で記述した通り多くのスカウト同士が全てのプログラムを通して積極的に交流を深めている様子が見受けられた。

SNSの発達により簡単にコミュニケーションを取ることができるが、是非とも次の活動へと移していただきたい。

事後アンケートにも協力していただき、参加者の声を聞く限り「つながり」は生まれているため、このねらいは達成されたと考える。

ねらい：2 フォーラムで得られた知見を今後のローバーリングに生かせる形でつなげてゆく。

野営城奉仕、活動報告会、フォーラム、キャンプファイアの全てのプログラムを通して、今回初めて話すスカウトもいるなか、様々な良いところを吸収し、一人ひとりの個性をお互いが認め合っていた。この活動を通して経験、吸収したことを今回の参加者は確実に活かしてくれると思う。よってこのねらいも達成されたと考える。

実行委員名簿

実行委員は全国ローバースカウト会議関東ブロック内の県代表及び、東京、神奈川、千葉、埼玉より1名ずつ加わっていただいた。

氏名	県連盟	所属団	役務	備考
出口 裕理	千葉県	船橋第5団	実行委員長・プログラム	
武田 英香里	千葉県	柏第1団	プログラム	
増間 智昭	東京	練馬第7団	会計	
水谷 百花	東京	世田谷第4団	会計	
椎野 博文	神奈川	南足柄第1団	食事	
岡崎 麻美	神奈川	横浜第130団	食事	
大野 聡	埼玉県	川越第9団	安全	当日欠席
寺島 早紀	埼玉県	入間第4団	安全	
岡 勇輝	茨城県	牛久第2団	会場・備品	
保田 恵里香	栃木県	宇都宮第15団	会場・備品	



参加者名簿

氏名	ふりがな	県連盟	所属団	備考
酒井 里佳	さかい りか	東京	千代田第7団	
枝迫 七海	えださこ ななみ	東京	世田谷第10団	
水谷 百花	みずたに ももか	東京	世田谷第4団	
内田 椋太	うちだ りょうた	東京	杉並第3団	
木村 孔紀	きむら こうき	東京	町田第13団	
比地原 衣里子	ひじはら えりこ	東京	品川第6団	
沼上 志帆	ぬまかみ しほ	東京	中野第8団	
木下 春香	きのした はるか	東京	千代田第7団	
木下 未央	きのした みお	東京	中央第6団	
仙田 雅大	せんだ まさひろ	東京	東村山第6団	
榊 和也	さかき かずや	東京	練馬第6団	
増間 智昭	ますま ともあき	東京	練馬第7団	RCJ県代表
山岸 野明	やまぎし のあ	神奈川	横須賀第4団	
岡崎 麻美	おかざき あさみ	神奈川	横浜第130団	
椎野 博文	しいの ひろふみ	神奈川	南足柄第1団	RCJ県代表
後藤 雄一郎	ごとう ゆういちろう	神奈川	鎌倉第2団	
出口 裕理	でぐち ひろみち	千葉県	船橋第5団	RCJ県代表
佐々木 裕太	ささき ゆうた	千葉県	君津第2団	
近藤 祐希	こんどう まさき	千葉県	栄第1団	
武田 英香里	たけだ ひかり	千葉県	柏第1団	
渡邊 祐亮	わたなべ ゆうすけ	千葉県	千葉第9団	
阿部 彰慶	あべ あきよし	千葉県	鎌ヶ谷第1団	
木村 祐介	きむら ゆうすけ	埼玉県	久喜第1団	
寺島 早紀	てらしま さき	埼玉県	入間第4団	
越智 茉未子	おち まみこ	埼玉県	さいたま第1団	
草間 明浩	くさま あきひろ	埼玉県	草加第3団	
池上 太悟	いけがみ だいご	埼玉県	さいたま第10団	
岡 勇樹	おか ゆうき	茨城県	牛久第2団	RCJ県代表
照井 徹	てるい とおる	茨城県	牛久第2団	
加藤 勇汰	かとう ゆうた	群馬県	高崎第18団	
保田 恵里香	やすだ えりか	栃木県	宇都宮第15団	RCJ県代表
和田 悠佑	わだ ゆうすけ	宮城県	仙台第1団	RCJ議長

特別参加者

(フォーラムをより良くするため、初めてのスカウトでも参加しやすくするために、スカウト経験、フォーラム経験の多彩な指導者の方に基調講演、活動報告を依頼した。)

小山 正芳	こやま まさよし	東京	港第16団	RCJアドバイザー
泊 昌史	とまり まさし	東京	目黒第3団	



事前準備の評価反省

プログラム：千葉

平日を含む3日間の活動ということもあり、遅参を認めていたため、メインとなるフォーラムにはすぐに入らずに、1日目はなるべく親交を深められるようなプログラムとした。初めに、野営場奉仕を場長にお願いし、行った。初めてチェーンソーを使うスカウトもいたため大変貴重な経験となったと思う。夜の活動報告会では少し時間が長すぎたが、発表をする側、発表を聞く側、双方に良い経験となったと感じている。

2日目のメインプログラムには全参加者に参加していただきたかったため、遅参の限界を2日目の9時までにし全員が参加できるようにした。夜のプログラムでは、キャンプファイアを行い、ディスカッションをしたグループでグループ別に出し物を用意した。

3日目には採択文の作成を各県ごとに行うようにした。作成の時間が短いという意見もあるが、3日間という期間を考えると致し方ないと思う。

セレモニーは、開会式、2日目朝礼、3日目朝礼、閉会式と行い、事前の打合わせは現地入りしてからだったが円滑に進められた。国旗掲揚、降納を各県ごとに割り振り重複せずに多くのスカウトが経験できるようにした。

事前に打合わせを直接会って行える機会が1度しかなかったが、LINE、Skypeを利用して行うことにより、うまくいったと思う。

安全：埼玉

安全という担当なのに応急処置セットを忘れてしまい、大変申し訳なかった。怪我人、体調不良者としては、蜂刺されがあった。奉仕作業で、潰れたテント撤営中に越冬の為蜂がおり、1名のスカウトが刺された。症状としてはその部位の痛みと周辺が熱を持つといったものが確認された。処置としては刺された本人が毒を口で吸った後、患部を冷やして、その後については経過を見ることとした。症状がひどくなることはなく大事には至らなかった。これがスズメバチ等ではなく本当に良かった。

それ以外では特に体調不良者が出ることもなかった。ただ、インフルエンザの流行時期でもあったので、手洗いうがいはいはもっと促しても良かったと思う。

食事：神奈川

毎食の食事は、質・量ともに十分準備提供できた。しかし、一部の食材について、買い忘れがあったものの、他の買出しに合わせて対応することができた。また、炊事では多くの場面で寺島さんに任せてしまったので、反省すべき点となりました。

会計：東京

会計報告

収入		支出	
参加費	161500	宿泊費	86800
お菓子募金	5615	暖房費	19000
		燃料費	6000
		食事・備品	49572
		ガソリン代	4000
収入計	167115	支出計	165372
		収支	1743

反省：お菓子・飲料の需要予測が不十分だったため、お菓子代が足りなくなり急遽募金をする形となってしまった。

備品：北関東（茨城・群馬・栃木）

担当が3県ということ、那須野営場には必要なものがそろっていたということもあり下見に参加した実行委員で準備をした。

今回は備品リストの作成をしなかったため、次回以降つくり準備がスムーズに進むように心がけたい。

前日準備

3日17時頃実行委員2名が到着後買い出しに行く予定だったが、遅参の集計と、最終人数での食材の量の計算をしていなかったため野営場でその集計を行った後で買い出しに行った。文具等、食材以外の備品の買い出しリストも作っていなかったため、当日に連絡を取りながら買い出しを行った。前日参加の実行委員が集まった23時過ぎに会議を行い、次の日の動きを確認してその日は終了した。

4日の午前中は、買い出しや会場設営等に分かれて準備をし、参加者が来るまでの間に夕食の鍋の食材を切っておくなどの準備もした。4日の準備は役割分担をしっかりとったため、スムーズにできたと思う。

準備全体として感じたことは、3日に現地入りする前にできたことは先にしておくべきだったということだ。実行委員が集まる機会があまりなかったこともあるが、申し込み締め切り後に人数集計はしておき、買い出しする物のリストを作成しておくべきだった。また、買い出しの場所も営業時間やどこで買うべきか等も含めて決めておくべきだった。

準備不足な点も多かったが、結果的には問題は特に起きずに運営をすることができたので良かったと思う。

各プログラムの評価反省

野営場奉仕（3月4日午後）

（栃木県連盟 保田）

奉仕内容

木の伐採、テント除去など

今回の奉仕では、過去に那須野営場の奉仕に参加し、チェーンソーを扱ったことのある者は、雪の重みで壊れた屋外設置のテントの除去を行った。それ以外の者は、場長にチェーンソーの取り扱いを指導された後、ノコギリも使用しながら、折れた桜の木を伐採し、整えていった。

また、チェーンソーを扱った後、使用後のチェーンソーの手入れの方法や、まき割りの仕方についても場長から教わった。

反省と評価

まず、今回の奉仕中の問題点でテントの除去に関して、参加者の一人が虫刺されがあったことである。大事には至らなかったが、冬とはいえ、虫刺され等の怪我の対策は必要だと思われる。また、そういった問題が起きた際に、すぐに対応できるように、奉仕中は救急セットを手の届く範囲に置くといった備えがあると良かったと思われる。

次に、チェーンソーの取り扱いの説明に関してだが、人数が多いこともあり、一人一人に取り扱いを説明している間、何もすることがない人ができてしまい、うまく人員の配置がいらず、効率下がっているように感じられた。参加者をグループに分け、それぞれの役割を明確にすることで、よりスムーズに多くの仕事量がこなせたのではないかとと思われる。

全体的に、人数が多いこともあり、奉仕中にすることがない、もしくは何をしたらいいかわからないといった人がいたのが今回の印象である。テントの除去と木の伐採の二つに分かれたのはとてもよかったが、そのなかでもさらに木をリヤカーで運ぶ、ノコギリで伐採するといった細分化ができると効率よく多くの事をこなせたのではないかとと思われる。

活動報告会（3月4日夜）・基調講演（3月5日午前）

（千葉県連盟 出口）

初日の活動報告会では、9組の方に活動報告をしていただいた。

ねらいとしては、初日にすることにより、残りの期間で個人的に質問をすることができるというのと、なるべく多くの人に発表していただくことによりローバースカウト活動の多様性、発表者の人物についてが見えてくると思い、初日に活動報告をしていただくことにした。

結果としては、タイムキーパーを設けなかったこともあり、時間が予定より大幅に伸びてしまったことが良くなかった。発表慣れしている人、準備を入念にしている人とそうでない人との差が出てしまったと感じた。内容はどの報告も個性があり、多くの参加者の視野が広がったのではないかと思う。

今回発表していただいた報告のほとんどが次年度以降も行われる活動なので今回を機に興味を持っていただいて積極的に参加していただけたら行った効果があると思う。

二日目のグループワークの前に導入としてRCJアドバイザー小山さんによるローバースカウトの在り方検討タスクチームの方としての基調講演をしていただいた。内容は、現代の特性と過去のフォーラムの採択分のお話をしていただき、その次にAPRユースフォーラム、APRカンファレンスの参加者である、泊さん（東京連盟）と武田さん（千葉県連盟）に報告をしていただき、そのままフォーラムへ導入していただいた。

この二組の方の導入は大変良かったと感じている。小山さん自身大学ローバーを経験されている方なので今後同じような機会があったらフォーラムにアドバイザーとしてきていただきたい。

発表者の方々には、突然のお願い、時間のない中での準備となりましたが快く引き受けてくださり大変感謝しています。ありがとうございました。

活動報告会内容

- 全国ローバースカウト会議（宮城県連盟 和田）
- 千葉県ローバース会議（千葉県連盟 近藤・佐々木）
- 明治大学ローバースカウト部（東京連盟 水谷・酒井・木下）
- 東京連盟100kmハイク（東京連盟 増間）
- 埼玉県連盟ユース会議（埼玉県連盟 寺島）
- RCJフォーラム2015（東京連盟 泊）
- 台湾ナショナルローバーカンファレンス（神奈川連盟 岡崎・宮城県連盟 和田）
- 平成26年度アイルランド英語研修（茨城県連盟 岡・東京連盟 沼上）
- CJK-バングラデシュプロジェクト
（東京連盟 仙田・沼上・栃木県連盟 保田）

基調講演

- 在り方検討タスクチーム（RCJアドバイザー 小山）

フォーラム導入

- APRユースフォーラム・APRカンファレンス
（東京連盟 泊・千葉県連盟 武田）

食事（3月4日夕食～3月6日朝食）

（神奈川連盟 岡崎）

個人的な反省として食事のメニューを自分で考えたのにも関わらず、買い出しに参加できなかったことが挙げられる。また、中華丼を作るための片栗粉を買い忘れ、和田議長に買い出しに行ってもらうなど少し不備もあった。結果として材料もほとんど余ることがなく、メニューも好評だったので良かったが、次回は食事担当が買い出しに行くべきだと思った。

食事作りは当初OBOG（26歳以上）の先輩に依頼するという話だったが、OBOGの参加者が少なく、プログラムを抜けて食事作りをしなければいけなかった。次回は出来れば食事奉仕をして下さる方を探し、スカウト（実行委員）もフォーラムに参加し集中できる環境を作ることが好ましいのではないかと思う。一方料理を得意とするスカウトを中心に食事作りを手伝ってくれて、食事を作りながらコミュニケーションを取ることができ、参加者と仲良くなることができた。参加者が食事を作るプログラムがあっても良かったかもしれない。

フォーラム（3月5日午前～3月6日午前）
（千葉県連盟 武田）

2日目に到着し、フォーラムプログラムから参加する参加者が何名かいたため、もう一度参加者全員が打ち解けられるよう、アイスブレイキングを行った。結果として2日目から参加したスカウトや、1日目にあまり話せなかったスカウト同士が打ち解けることができたのではないと思う。アイスブレイキングのゲームを通して、「モノのとらえ方は一人ひとり異なるが、多様なバックグラウンドをもった仲間と話し合う事は、自分に新しい視点を与えてくれる」というメッセージも伝えることができた。

テーマ決めに関しては、大学ローバーと地域ローバーとの関わりというテーマにグループの3/5が集中してしまった。もっと多様なテーマがあってよいという意見がある一方で、これだけ多くの参加者が大学ローバーと地域ローバーの関係性にスカウティングの活路を見出しているということは、何かしらアクションを起こすべき重要なことだからだろう。

テーマの多様性を広げるための改善策としては、基調講演とフォーラムをリンクさせることが挙げられる。今回のフォーラムにおける基調講演は、東京都連盟目黒第3団の泊さんによる第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムの報告であった。しかし、参加者にとっての基調講演となったのは前日の夜に行われた活動報告会であったように思える。本フォーラムを経て、わたしは基調講演というもののとらえ方を改めねばならないと感じた。基調講演とは、参加者に議論する内容のヒントを与えるような、問題提起をするような講演であるべきなのだろう。このような基調講演を複数用意し、テーマ決めの際に用意されたテーマのカードを選択してゆくという方法を取ることもできる。

テーマ決めはフォーラムの方向性を決める重要なファクターであるが、参加者全員が満足のいくテーマ決めを行うということは、進行側として頭を悩ますポイントでもある。参加者の話したいテーマに自由に人数を分配すれば、テーマごとに人数のばらつきが生じ、時には安易に答えが求められるテーマに人が集中し、話すべき議題にひとが集まらず、フォーラムとしての質が落ちてしまう。しかし、事前にテーマを進行側が決めてしまえば、参加者がフォーラムで話したいと考えていたことが達成されず、フォーラムに対する満足度が下がってしまうかもしれない。このジレンマは手法を工夫することによって、多少は改善されることが見込まれるため、どのようなフォーラムを行うにしても、次回進行役を務める人には熟考してもらいたいポイントである。

2日目のグループワークは、まずテーマについてグループ内で話し合いを行い、その後は何回かグループをシャッフルすることで、参加者が多くのスカウトから自身のテーマについてヒントをもらうこと、他のテーマにも触れられることを目指した。前半のグループワークでは、タイムキーパーやグループリーダーを定め、グループの進行を彼らに任せて見守っていた。参加者は全員大学生以上であったため、スムーズに役割も決まり、積極的に話し合いを進行してくれていたような印象を受けた。しかし、参加者からの意見として、時間配分がうまくできなかったので、タイムキーピングの例を出してほしかったという意見もあった。フォーラムに慣れていない人がタイムキーパーを行うと、確かに議論の時間配分を決めることは検討が付きにくく、難しいことだと思った。フォーラムを経験したことのないスカウトがいる場合、そのスカウトにボーダーラインを合わせて運営することが、全体の進行役の務めだろう。

後半のグループ間の意見交換では、合計で4回シャッフルを行ったのだが、グループに残って話し合いの流れを説明する“ホスト”を途中で交代したのは良い判断であったと思う。ホストは口を動かす時間が非常に長いため、体力を消費してしまうし、4回全部を同じ人が

ホストを務めると、ホストが他のグループのテーマについて考える機会がなくなってしまう。

2日目最後の発表は、意見交換で得られた結果を参加者それぞれがしっかりとまとめ、準備してくれたように思える。ここで一度話し合いの成果をまとめ全体に発表することで、参加者の頭を整理することができたのではないだろうか。しかしここで気になったのは、質問の数の少なさである。質問があまり活発に行われなかった理由としては、以下のことが考えられる。

まずひとつ目に、意見交換のためのシャッフルを行ったことが挙げられる。事前に発表内容がわかっていると、違和感を感じることなく、スムーズに内容が頭に入ってくるため、純粋に質問が浮かばなかったのではないだろうか。ふたつ目に、質問しやすい雰囲気づくりをあまり行うことができなかつた事が原因なのではないかと考えられる。大学生ともなれば、質問するのが恥ずかしくてできないという事はもうないだろうが、参加者が質問してやろうと考えながら発表を聞かなければ、活発に質問する雰囲気というのは生まれない。以上のことから、発表が始まる前に何かひとつ仕掛けをほどこす必要があつただろう。

3日目の県連盟ごとの採択文の作成は、時間が足りなかつたというのが進行側としても一番感じたところであつたし、参加者のアンケートからも多かつた意見である。流れとしては、全体のグループワークの結果を聞いた後、全員がその内容を頭に入れた状態で採択文の作成へ移るとスムーズな運びとなるのだが、2日目にその時間を入れていたら、参加者の頭はオーバーフローしていただろう。改善策として考えられることとしては、3日目にすっきりした頭にグループワークの結果発表をインプットし、そのまま県連盟の採択文作成に移るといふ事が挙げられる。そうすると、なおさら時間が押してしまうように感じられるが、3日目の最初の時間は結局2日目の発表の再確認から入っていたので、作業時間的にはそんなに変わらないのではないかとと思われる。最後にキーパーソンカードという取り組みを行い、参加者同士がフォーラム後も繋がれるような取り組みを行ったが、今はSNSを通じてスカウト同士が繋がることもできるため、この取り組みをなくして採択文の時間に当ててしまえば、よりじっくり話し合いも行うことができるだろう。

フォーラム全体の評価反省としては、参加者に提示する情報が少なかつたことが挙げられる。フォーラムというのは、インプットが多ければ多いほど有意義な話し合いができる。話し合いを行いながら基調講演のレジュメを振り返ったり、自分のノートを見返したり、何か資料を参照したり、そんな何気ない作業がフォーラムの質を少しずつ底上げしてくれる。また、フォーラム参加者がフォーラム全体の流れを良く認識できると、時間の心配などの余計なことに思考を割くことなく、この先話すべきことの見通しができるため、次回はプリンターを持参して、プログラムスケジュール、発表資料を参加者に配布することが必要だと感じた。

キャンプファイヤー（3月5日夜）

（埼玉県連盟 寺島）

私がキャンプファイヤーの木を組むのは初めてだったので、出口さんに色々お聞きしながら組むことができました。キャンプファイヤーの準備時間が短く、ドタバタしてしまったのですが、前日の段階でもっと準備ができたのではないかと思います。またファイヤー場への行き方の認識で実行委員同士でズレがあり、ファイヤー場と講堂での連絡を取ろうとしても、連絡が付かなかったので、あらかじめ連絡手段を決めておき、携帯のマナーモードを解除するなどの対策が取れたと思う。

ファイヤー自体の内容はとても充実していたので、違う団のスタンプをお土産に持ち帰る事ができたと思う。



日程表

時間	3月4日(金)			
6:00				
7:00				
8:00				
9:00				
10:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00	受付	玄関		
	開会式	カブ広場		
	オリエンテーション			
15:00	アイスブレイキング			
16:00	& 野営場奉仕			
17:00	夕食準備			
18:00	夕食			
19:00	活動報告会			
20:00				
21:00	入浴	女性先		
22:00	消灯・就寝			

時間	3月5日(土)	
6:00	起床	
	洗面・清掃	
7:00	朝食	
8:00	朝礼	
9:00	プログラム① 導入	
10:00	休憩	
11:00	プログラム② グループワーク	
12:00	昼食	
13:00	プログラム③ グループワーク	
14:00		
15:00		
16:00	休憩	
17:00	プログラム④ まとめ	
18:00	夕食	
19:00	夜のプログラム	
20:00		
21:00		
22:00	入浴	男性先
	消灯・就寝	

時間	3月6日(日)	
6:00	起床	
7:00	洗面・清掃	
8:00	朝食	
9:00	朝礼	
10:00	全体会 (発表)	
11:00		
12:00	閉会式	カブ広場
13:00		
14:00		
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		



採択文

採択文の作成は最終日に各県連盟ごとに別れて行った。

少数となっていた茨城、栃木、群馬の3県のスカウトはスカウト登録数が近い宮城県連盟和田スカウト（全国ローバースカウト会議議長）にオブザーバーとして参加していただき合同で作成していただいた。

今後は、各県連盟、ユース組織、ローバー組織、大学ローバーにてアクションプランを指導者の協力のもとにより明確にし活動へと移していく。

東京連盟

1.東京連盟ローバースカウトにおける情報共有

地区代表による情報共有だけでは、情報の拡散に不十分な点が多くみられるため、代表以外のスカウトがより多くの情報を得て、活発に活動できるよう、不特定多数に対して迅速に情報拡散できるような手段を構築する。メーリングリストやグループウェアの利用を検討する。

2.大学ローバー団との交流

東京連盟の地区ローバー代表者会議などへの大学ローバー担当者の参加を促す。また、地域団と大学ローバーとの共同行事や人材交流を実施しやすい環境づくりを行う。また、各大学ローバーには他県から東京の大学に入学したスカウトの受け入れ体制、広報を強化を依頼する。

3.東京でのスカウト活動の窓口の設置

東京連盟のウェブサイト内に各地域の地域団、大学ローバーの検索システムを設置し、新しくスカウト活動に子供を参加させたい保護者や、東京に転居、転勤する既存スカウトが従登録先の団を見つけやすくする。

東京連盟主導で保護者向けのイベント、説明会を実施する。これにより、保護者間での意見交換に加え、自分の子供のスカウトとしての将来のビジョンをイメージし、将来的な有益性を訴求する。

4.広報の強化

Facebook、Twitterなどの各種ソーシャルメディアを活用し、ボーイスカウト活動の魅力をリアルタイムに配信し、目につく機会を増やす。ソーシャルメディアの活用にかけているローバー年代を運営に加える事で、効果的な広報効果を目指す。

5.IT導入の推進

各種行事などの申込の電子化を推進し、行事参加のための手続きの煩雑さの低減を目指す。これにより、フォーラムなどの参加者に参加しやすくなり、ローバー活動全体の活性化を目指す。PDFによる電子署名などを導入する。

6.青年理事

スカウトが主役であることを踏まえ、スカウト活動の最終プログラムであるローバースカウトが東京連盟理事会に青年理事として参画し、スカウトの生の声を理事会に反映させる。これにより、時代のニーズに即したプログラムを増やし、スカウト活動の魅力を高め、スカウト人口の増加を目指す。

神奈川県連盟

神奈川県連盟におけるローバー活動を活性化させるために、以下の内容を提言する。

- 一. ローバー活動を促進させるために、ローバースカウト同士のネットワークを強化する。
- 一. 次世代のローバースカウトの育成のため、ベンチャースカウトと活動する。
- 一. ローバースカウトによる県連盟規模のプロジェクトの実施を促進するため、手続きの明確化と確実な情報共有を求める。

千葉県連盟

千葉県ローバースと県外ローバース

1. 千葉県ローバース会議を介して千葉県のローバースカウトが千葉で活動する県外ローバースの支援を行い、県外ローバースと千葉県ローバースの関係を良好なものとする。
2. 県外のローバース・ユース組織・大学ローバーと継続的な関係を築くことによって、県外でのスカウティングを実践するスカウトに適切なスカウティングの場を提供できるようにする。
3. 千葉県ローバース会議と千葉県で活動する他県のローバースカウトが円滑に情報を共有できる体制を県連盟と共に確立する。

スカウト人口

1. 質の高いローバリングを展開・発信することにより、スカウトの上進率をあげ加盟登録数を維持する。
2. スカウト人口に対してローバースカウトがアプローチできることを県連盟と共同し研究検討する場を作る。
3. 県連盟と共同し、正確かつ素早い情報共有を行うことにより、活動に参加するスカウトの割合を増やす。

埼玉県連盟

- 1 ユースの年齢制限を広げ、18、19のスカウトにもユース会議、及びユース活動への参加をしてもらう。
- 2 広報活動を活発化させ、多くの埼玉県ユースが活動できる環境を作る。

茨城県連盟・群馬県連盟・栃木県連盟

(3県共通)

○主にスカウト活動の活発化の視点から
～北関東が抱える問題点を解決するために～

1. 問題点

- ・ スカウト人口が少ない
- ・ 隊としての活動が成り立たない
- ・ 活性化できない
- ・ ユースが生かせていない、もしくは無い
- ・ 活動の報告ができない
- ・ 情報が流れてこない

2. どう解決していくか？

- ・ 後輩の育成（後輩にノウハウを教え活発に）
- ・ 内輪でもいいから集まる
- ・ 県連に頼りすぎず、個人でも積極的に情報の共有
- ・ 県ユースの作成（少しのつながりから）→県連盟との連帯
- ・ 名簿の作成、人の把握（県連盟との協力もしくは地区から）
- ・ 県内の今後の目的とその行動、集会など行う
- ・ 他の県ユース（宮城、千葉、埼玉など）を見習いながら育てていく
- ・ 情報共有をメインに話し合いをする
- ・ 必要に応じて助成金をもらえるようにする
- ・ 北関東合同キャンプ（案）を行う

3. これからに向けて具体的な動き

- ・ 人に声をかけて、話し合いの場をつくる
 - ①内容は情報共有をメインに会議し、
 - ②目標を決め、県内でローバーリング活性化→活動、何やりたいかの模索
 - ③県のローバー人口の把握と県内のつながりの強化
 - ④五カ年計画最終目標
県ごとに会議し、決定

4. 北関東（茨城・栃木・群馬）レベルでの動き

- ・ 合同行事を開催
那須・高萩の野営地を生かし、三県の連携ができる場を作る。
最終目標として、北関東を越えた他県も交えた活動でさらに活性化へ。

栃木県 まとめ

スカウト人口の減少が課題の栃木は、まず現段階で県内にいるスカウトの把握と繋がりを構築・強化が大切であると思う。

そのために、県スカウトフォーラム等で、連絡網を確保のための催しが必要で、これらを運営のために目的を明確にして計画する必要があると思われる。

また、県外に出たスカウトに対しても、栃木に帰省した際に原隊で活動できるようなシステムや情報共有の確保を行えるようにしつつ、スカウト人口の減少を防ぐために、後輩にローバースカウトの活動の啓蒙運動として、ベンチャーに働きかける等の動きが必要だと思われる。

群馬県 採択文

スカウト同士のつながりを強くし、広げて楽しい活動をふやすことで、今現在登録しているスカウトが退団しない取り組みを行う。



関東フォーラムを実施して

全国ローバースカウト会議
関東ブロック代表 出口裕理

昨年、23WSJ、RCJフォーラム2015が行われ、日本のローバーは間違いなく熱くなっていました。そこで冷めさせてはいけない、また、その熱をその場に参加していなかったローバーへ拡大していかなければならないという思いと、ブロックという規模でローバーが集い、一つの活動がしたいという思いのもと、今回の関東フォーラムが行われることになりました。

目的としては他県のローバーリングを知ることを掲げました。今まで日本各地からローバーが集まり、それぞれの地方によつての違いを感じることは多々あったと思います。今回は、3日間全てのプログラムにおいて、同じ関東ブロックですが、異なつたところ、似たようなところ、同じところと感ずることができ、新たな気付きを得て、この目的は達成されたと思います。

登録数から見ると、まだまだ多くのローバースカウトがいます。今後ローバースカウト活動の魅力を多くのスカウトへ伝えていき、次回はより多くのローバースカウトと意見交換ができることを楽しみにしています。

関東フォーラムを実施するにあたり、実行委員は、直接集まって会議することが1度しか出来ませんでした。しかし、各役職を県ごとに割り振ることによつて滞りなく準備が出来たと思います。

実行委員には、初めてのことで私も戸惑いつつだったので多くの迷惑と負担をかけたと思います。なかなかうまくコミュニケーションを取れない中で、成功できたのは実行委員全員のおかげだと思います。

今回実行委員にもプログラムに参加できるようにしたかったのですが、なかなか出来ない部分もありました。次回以降はOBOGの先輩方、指導者の方々に支援を要請し、参加できるようにしたいと思います。

今後新たなローバーコミュニティが発足する動きがあるかもしれません。その時は、是非今回生まれた「つながり」を利用し、良いコミュニティが出来たらと思います。

そして、今回できた多くのつながり、新たに得た情報を各県、各自のローバリングに生かすことによつて今回のフォーラムが成功だったといえると思います。今回吸収したこと、これから吸収することを確実に下の世代へとつなげていっていただきたいです。このような活動が継続的に、且つその時代に合った内容へと進化して行われていくことによつてローバリングは活性化を続けていくと思います。

実行委員、参加者の皆さんにまたお会いできるのを楽しみにしています。